

1. 事業目的

Virtus（国際知的障がい者スポーツ連盟）は、2019年に行われた国際大会において初めてダウン症クラス（II - 2）を導入した。日本国内では、日本知的障がい者陸上競技連盟が主体となり 2021年10月に、国内初の「全国ダウン症アスリート記録会」を宮崎県実施し、大きな反響があった。あわせて「オール陸上記録会（2022年3月21日国際ダウン症の日）」のイベントで、ダウン症の方々へ参加を呼びかけ「かけっこ教室」を企画し、ダウン症のスポーツ活動の参加機会の充実を図った。

その反面、コロナが収束しない中、特別支援学校の運動活動などは、地域によっては活動自粛や、競技場の制限があり、活動の機会が少ない現状がある。大会を開催しても、コロナ禍を理由に遠方移動が困難な参加者が多く、継続的開催という声が多い反面ダウン症の安全確認も重要である。

本事業では、国内のダウン症競技者を対象とした陸上競技記録会を開催することで、国内スポーツ関係者並びに陸上競技関係者に対し、障がい者スポーツへの理解と関心を高めると共に陸上競技の幅広い普及を図ることを目的とする。

2. 実施日程及び会場

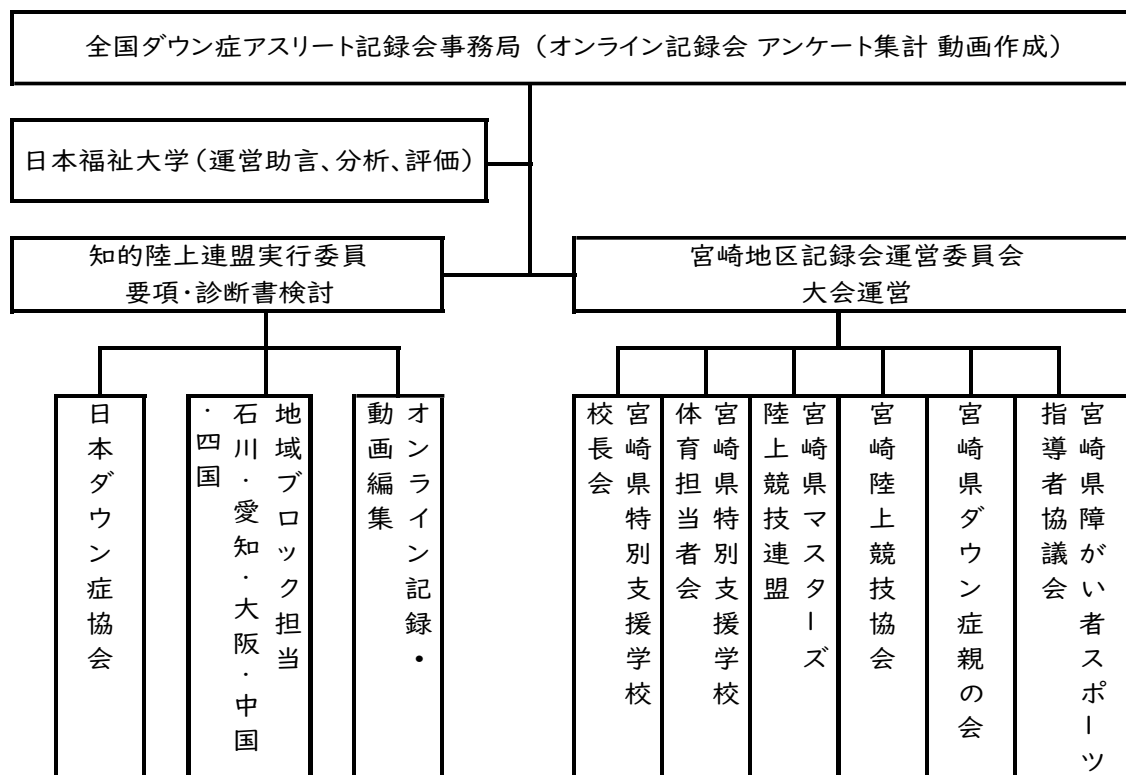
「全国ダウン症アスリート記録会」 公式の部・オープンの部

2022年10月2日（日）宮崎県ひなた宮崎県総合運動公園 ひなた陸上競技場
〒889-2151 宮崎県宮崎市大字熊野

「全国特別支援学校 ID オンライン記録会」 体力テストの部・チャレンジの部

2022年10月17日（月）

3. 事業の実施体制



4. 実施方法

具体的な事業実施内容

- ・全国特別支援学校校長会、日本ダウン症協会等との連携を図り、告知活動及び大会周知の実施。

- ・新型コロナウイルスの影響下の経験を踏まえ、誰もが参加できる「全国特別支援学校オンライン記録会」の実施。
- ・既存の健常者の陸上競技大会にダウン症選手が参加できる全国規模の記録会及び、「全国ダウン症アスリート記録会」を開催し健常者と障がい者が共に参加でき、地域陸協との連携モデルの構築。
- ・一般や近隣の小・中・高校に向けて、会場にパラスポーツ体験スペースの設置、集客を図った。
- ・ダウン症選手が安全に参加できる手立てについて「ダウン症の勉強会」をオンラインで実施。

5. 参加校

全国ダウン症アスリート記録会

参加申し込み一覧

九州-沖縄	宮崎県立みなみのかげ支援 宮崎県立しろやま支援学校 宮崎県立みやざき中央支援学校 久留米市立諏訪中学校	宮崎県立みやざき中央支援学校 宮崎県立しろやま支援学校 宮崎県立児湯るびなす支援学校 宮崎県立きりしま支援学校 八代市立八代支援学校 伊万里市立花小学校 延岡市立伊形小学校 ハッピーコーポレーション くりーんわーくす あゆみの里 じょいわーくす 唐津陸上クラブ COCORO カヌチャベイリゾート
近畿	京都市立深草中学校	チームみえりく
中部・東海	宝塚市立御殿山中学校 豊橋市立豊岡中学校	
関東	都立町田の丘学園 台東区立台東育英小学校	
内訳	公式の部 18 名 小女 2 名 中女 1 名 中男 8 名 高男 4 名 一般男 2 名 一般女 1 名	オープンの部 18 名 小女 2 名 小男 7 名 中女 1 名 中男 4 名 高男 1 名 一般男 3 名

オンラインの部 参加申し込み一覧

九州-沖縄	宮崎県立みなみのかげ支援学校 鹿児島 高等特別支援学校	長崎県立虹の原特別支援学校 長崎県立希望が丘高等特別支援学校 鹿児島高等特別支援学校
中国-四国	日立特別支援学校 香川大学教育学部附属特別支援学校 鳥取県立米子養護学校	香川大学教育学部附属特別支援学校 城陽支援学校
近畿	岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 大阪府立豊中支援学校	京都府立城陽支援学校 大阪府立豊中支援学校 岐阜県立中濃特別支援学校
北信越	石川県立七尾特別支援学校	石川県立明和特別支援学校 石川県立七尾特別支援学校
中部-東海	雨竜高等養護学校	日立特別支援学校
関東	千葉県立特別支援学校 流山高等学園 千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 埼玉県立春日部特別支援学校	千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 埼玉県立本庄特別支援学校 東京都立永福学園 埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校

	埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校 千葉県立槇の実特別支援学校 埼玉県立三郷特別支援学校	足利中央特別支援学校
北海道・東北	青森県立青森第二養護学校 秋田県立比内支援学校 青森第二養護学校 足利中央特別支援学校 旭川市立中央中学校 北海道雨竜高等養護学校	旭川盲学校 宮城県立山元支援学校 北海道白樺高等養護学校 旭川市立中央中学 校岩手県立前沢明峰支援学校
地域	体力テストの部 (延べ人数エントリー1230名)	チャレンジの部 (延べ人数エントリー195名)

全国特別支援学校IDオンライン記録会2022(体力テストの部)				参加人数内訳			
順位	成績優秀校	指導者	総数	ダウン症			
1	千葉県立特別支援学校流山高等学園	早川 聡太	178	種目1	種目2	種目3	延べ数
2	宮崎県立みなみのかぜ支援学校	太田 裕輝	77	19	11	8	38
3	千葉県立特別支援学校市川大野高等学園	清水 崇史	72	チャレンジの部			
4	石川県立七尾特別支援学校	徳山 慧	44	高体連	全スボ予選	地域陸協	特体連
5	青森県立青森第二養護学校	工藤 重輝	32	50	62	26	44
全国特別支援学校IDオンライン記録会2022(チャレンジの部)				種目1	種目2	延べ数	延べ人数
順位	成績優秀校	指導者	総数	10	3	13	195
1	岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校	吉田 徹	26	体力テストの部			
2	千葉県立特別支援学校市川大野高等学園	清水 崇史	18	立幅	ソフトボール投	50m	延べ数
3	埼玉県立本庄特別支援学校	樋口 進太郎	17	478	248	504	1230
4	長崎県立虹の原特別支援学校	松尾 貴之	15	総計			
5	石川県立明和特別支援学校	小西 夏	11				

オンライン記録会ランキング一覧表
(全国特別支援学校 ID オンライン記録会
2022のダウン症を含む) エントリー総数
1463名
全国特別支援学校 ID オンライン記録会2022
チャレンジの部 エントリー総数 195人
全国特別支援学校 ID オンライン記録会2022
体力テストの部 エントリー総数1230人



6. 前日の陸上教室

ダウン症競歩教室 スタート練習を実施



スポーツ庁委託事業 令和4年度 障害者スポーツ推進プロジェクト

パラスポーツにチャレンジ
10月2日(日) 10時~13時
ひなた宮崎競歩運動公園 ひなた陸上競技場正画(木花)
いろんなスポーツにチャレンジ

私も普通に応援に
いきます!
植田明美(会長)

・全国ダウン症アスリートきらく会
・宮崎マスターズきらく会
応援しよう!

主催 特定非営利法人日本知的障がい者陸上競技連盟
後援 全国特別支援学校校長会 宮崎県 宮崎特別支援学校校長会 宮崎市 宮崎市教育委員会
協力 一般財団法人実業陸上競技協会 実業マスターズ陸上競技連盟 日本福祉大学
協賛 いちご株式会社 宮交シティ 民間連携(株) 大崎酒本舎 日神実業 浜藤洋酒 J&S さい
経済連合会 こまチカ 問い合わせ(連絡) akumata@kumata.or.jp

当日の出店予定
・いつかの杜(キッチンカー)
・さきあげ亭(寿司)
・かんぱん-ぱん(パン)
・丹波産(ブランド)ハズ住吉

7. その他の取り組み

- パラスポーツ体験 参加人数 延べ人数 100名

車いすバスケットボール

3段階の難易度を選択してもらい、その場所からゴールを決めるゲーム。ダウン症選手の体験は、車いすを使わないシュートから、徐々に保護者や学生・友達にパスを出し、みんなでゴール楽しんだ。パラスポーツとのふれあいや、車いすに対してポジティブな印象を与えられた。



ボッチャ

3×4mのコートを作り、ボッチャと同じルールで、幼児や発達障害児もわかりやすく楽しくできるため、友達や保護者の方と楽しみながら競っていた。

フライングディスク

実態に応じて、難易度を3つに分けたが、ボール投げと違い、横投げは初心者には困難だったが、周囲がアドバイスし、何度も挑戦して入った時、喜びを共有できた。

I am possible

パラスポーツ啓発活動でクイズを作り、体験会のチラシの裏に印刷したことで、注目を浴びることと、パラスポーツのことを知ってもらうことができた。会場ではみんなで一緒に考えている姿や、「知らなかった」「そうなんだね」などの感想が聞けてより他の体験も楽しんでもらうことができた。



- マスターズ記録会（宮崎チャレンジアスリート記録会）との共同開催



- 見やすいプログラムの工夫

ダウン症が走る組にはDを最初に設置。D中学生100mとした。パラ選手種目はCとし所属の後ろに障害クラス（T63）と追記し、選手がどういった障がいか、理解しやすい工夫をした。

D中学生男子 100m

日本記録 15"69 菅原 誠士郎 宮崎・みやざき中央 2021.10.24全

【決勝】

1組	(+/-)			
レーン	No.	氏名	所属	(順位) 記録
1	16		延岡しろやま	()
2	18		唐津陸上クラブ	()
3	19		深草中	()
4	20		みやざき中央	()

C一般男子 100m

【決勝】

1組	(+/-)			
レーン	No.	氏名	所属	(順位) 記録
1	134		チャレンジ A C	()
2	* 102		住友電装 (T63)	()
3	137		チャレンジ A C	()
4	120		全スボ選抜	()
5	130		チャレンジ A C	()
6	105		大分 (T62)	()

- ②ダウン症記録の掲載を選手の写真入りで掲載し、見る楽しみを加えた。

ダウン症クラス (II-2) 日本記録 <small>https://www.virtus.sport/results-rankings-records</small>				
種目	100m	200m	400m	走幅跳
氏名	菅原 誠士郎	相田 周一郎	三門 和生	菅原 誠士郎
記録	15"69	35"53	1'36"33	2m80cm
風力	+1.3	+1.7		+1.5
				
所属	みやざき中央:宮崎	cocoro:宮崎	みなみのかぜ:宮崎	みやざき中央:宮崎

●勉強会

ダウン症の方々が、運動をする上での注意、配慮事項、全国大会での競技レベル、世界大会レベルで活躍するアスリート段階レベルでの配慮点。(診断書作成でのポイント等) 直接、沼部博直先生から学ぶ機会をオンラインで9月16日19時~設定し、35名の方がダウン症の運動で配慮すべき点を学んだ。

環軸椎不安定性のないことの診断ならびに添付書類

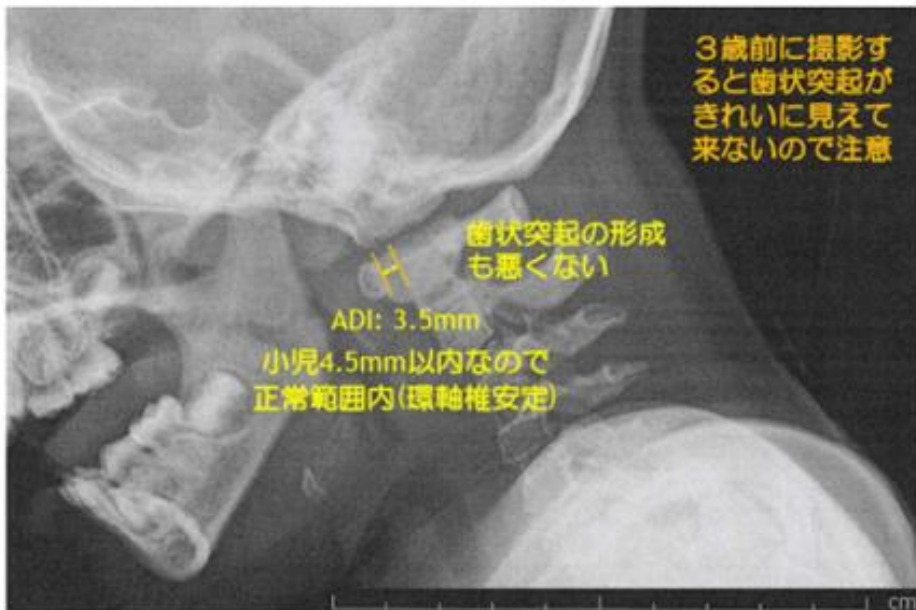
ダウン症候群では軸椎歯突起の形成異常と環椎横靭帯の弛緩を主たる原因とする環軸椎不安定性(亜脱臼)を来す可能性があり、時に軽微な外力により脱臼位を来し、危険な脊髄圧迫症状を呈することがある。

環軸椎の安定性のチェック項目としては下記の4項目が VIRTUS(国際知的障害者スポーツ連盟)の参加申請書に記載されている。

- ① その選手は症候性環軸椎不安定性(AAI)の診断を受けていますか？
- ② その人には進行性の筋疾患の徴候がありますか？
- ③ その人には頭頸部の筋運動制御低下が認められますか？
- ④ その人は自分の首を前に曲げて顎を胸につけることが出来ますか？

競技参加には上記の①~③がなく、④が可能である必要がある。

環軸椎不安定性により脊髄圧迫を生じた際には、深部腱反射亢進、協調運動障害などの運動失調、四肢の運動麻痺、知覚障害などの症状を生じる可能性がある。



実際の3歳児の前屈位画像とADIの測定結果を示す。中間位や後屈位の値もこれより小さいことを確認しておく。

VIRTUSの診断書には測定結果を踏まえた不安定性がないこと前述の①を否定する記載を行うことで示す。

また、X線画像の添付も求められているが、実際にはX線画像を紙にプリントアウトする、X線画像を写真撮影して紙にプリントアウトするなどの対応が实际的である。

診断は、整形外科医、脳神経内科医、神経小児科医などにより行われる。

(勉強会資料一部抜粋)

●障がい者が理解しやすい動画配信

動画配信 <https://www.facebook.com/jidaf.koho/videos/1463979357299831/>

ダウン症アスリート本人のYouTube配信

ダウン症ななりんチャンネル登録者数 373人 1681回視聴 https://youtu.be/yF0k0qe1_R8

●SNS活動

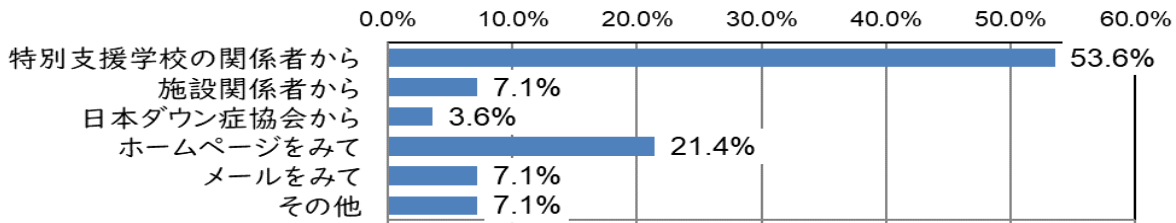
https://instagram.com/downs_syndrome_athletics?igshid=YmMyMTA2M2Y=

フォロワー50人で、拡散方法が課題。

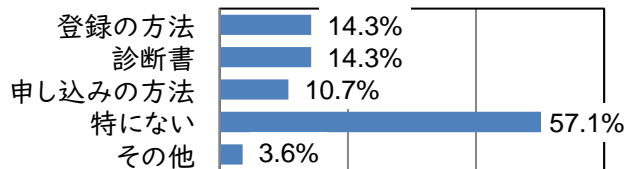
8. 参加者アンケート

(36名中26名保護者回答)

①記録会をどのように知りましたか。 ※複数回答可



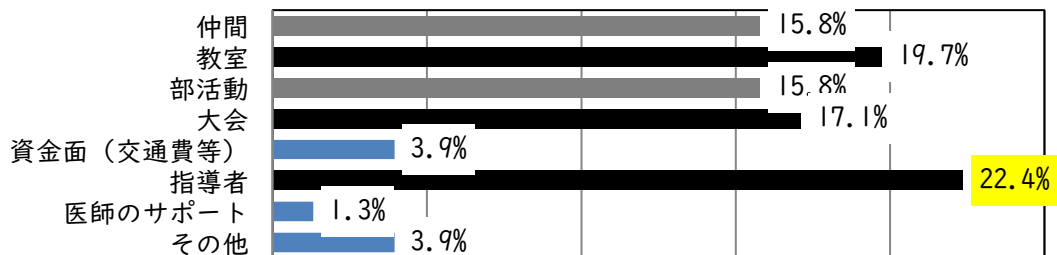
②エントリーの時に大変だったことはありませんでしたか。 ※複数回答可



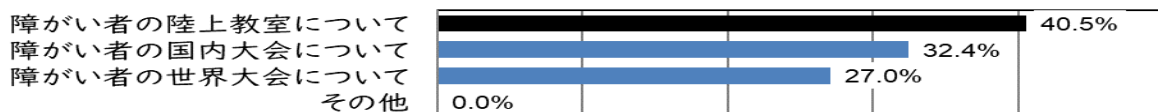
③記録会に参加していかがでしたか。

		回答数	26
1	良かった	26	
2	良くなかった	0	
3	どちらでもない	0	

④ダウン症のある人のスポーツ参加機会を増やすためには何が必要だと思いますか。 ※複数回答可



⑤今後知りたい陸上競技の情報は何ですか。 ※複数回答可



⑥記録会に参加した感想を記入してください

- 今年は昨年よりも参加者が増えていたように思います。招集所のテントに「招集所」の表示があれば分かりやすかったです。昨年同様、スタッフの皆様のサポートに感謝致します。丁寧に接して頂きありがとうございました。
- 大会開催に感謝の気持ちでいっぱいです。知的障害の大会では、体は丈夫で健康な人に囲まれ、とても残念に思っていました。本人も親もモチベーションが上がらず、でも昨年見たニュースで大会を知り、俺の時代来たー！と思いました。これからも頑張ります。
- 前日も楽しい練習会があり娘はとても充実していたようです。ありがとうございました。幅跳びは三回だけだったので1/2に減るのはがっかりでした。（遠方から来るというのものもあるかも知れませんが、せっかく来たのでチャンスが欲しかったです）沢山の方が温かく運営に携わっておられて宮崎県はすごいな。。。と改めて思いました。ありがとうございました。
- 昨年度より参加者も増えて盛り上がりを感じました。運営も昨年より円滑だったように思います。スタッ

フの皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

- 今回は参加することで子どもの経験に繋がればと思いました。初めての参加でしたが良かったです。最初泣きましたが、リレーの時に「頑張ろう」と言って笑顔でバトンを繋げて良かったです。
- 初めての参加だったのでどうしたらいいのか少し不安でしたが子どもが楽しめていたのですごくうれしかったです！！本当にありがとうございました。
- このような機会をいただき大変ありがたく思います。今後も引き続きつながっていただけると嬉しいです。本人も一日とても楽しかったと喜んでます。ありがとうございました。
- ダウン症の子どもにこのような機会を与えていただきありがとうございます。県の障害者スポーツ大会や国スポ障スポの陸上の部でのダウン症の部をぜひ設けていただきたいと思います。
- 天気に恵まれて楽しめました。参加者が増えるともっと活気が出ると思います。地域でもダウン症の運動大会があることを願っています。
- 宮崎遠方から来て下さったスタッフの方ありがとうございました来年も必ず参加します。鍛えて来ます。
- 一生懸命取り組む姿が見られてよかったです。来年も参加してもらおうと思います。
- オープンで県外からの参加でしたが親子で楽しめました。また、来たいです。スタッフの皆さんお世話になりました。駐車場で車を停める位置やそこから会場を探すのに迷いました。
- 参加者が多くて去年一緒に走った子もいて楽しかったです。
- 昨年より参加して目標をもって練習をすることができています。
- とても良かったです。とても楽しかったです。良い思い出になりました。ありがとうございました。いい経験ができました！参加できてとても良かったです。

9. 実行委員アンケート一部抜粋



②上記①の回答について、理由を教えてください。(任意) 11 件の回答

- 間が空いた時間もありましたが、詰込み感は無かった。
- 片付けの時間も含めてみんなで協力できるスケジュールでよかったと思います。
- 若干押しはいたものの、だいたい予定通り進行していたと思います。
- 競技進行どおりに進んでいた。
- システムチェックに動いていなかった点と内容を理解していないスタッフが多くいた。そのために現場での判断が多すぎた。
- ダウン症の選手のことを考えると、最後 200m からエンジョイリレーまでは時間がかなり短いと思いました。休む時間はほとんどなかったと思います。
- 座位投擲と視覚障害走幅跳を受け入れたことで、タイムテーブル作成に難航した。今回のエントリーはそれぞれ 1 名ずつだったので何とか日程を組めた。また、ダウン症選手がもっとフォーカスされるような工夫も必要だと感じた。
- ダウン症アスリートだけでは参加者が少ないのでマスターズなどとの共催となれば今回のようなプログラムになるのかなあとと思います。
- 少し競技間隔空いて間延びした感じもあったが詰めてバタバタしてるよりは良かったと思う。
- 3つのカテゴリーの競技を同時にしたことは無理があったと思います。

③大会前日に行った「陸上教室」について (任意) 11 件の回答

- 凄くいい取り組みだと思います。
- 競技場を一般開放していたため、他の高校との兼ね合いでレーンなどが使用できなかった。
- 体を動かす遊びの要素も入っていて、よかったです。
- 周知期間が短く、ややPR不足になってしまいました。とてもいいイベントなので、早めに SNS 等で知らせたいと思いました。陸連ホームページの「お知らせ」には「ダウン症アスリート陸上競技体験会」となっていました。これが「陸上教室」のことですね。ほかにも「パラスポーツ体験会」があったこともあり、どれがどれなのかややわかりにくかったように思います。
- 非常に上手く展開できたと思った

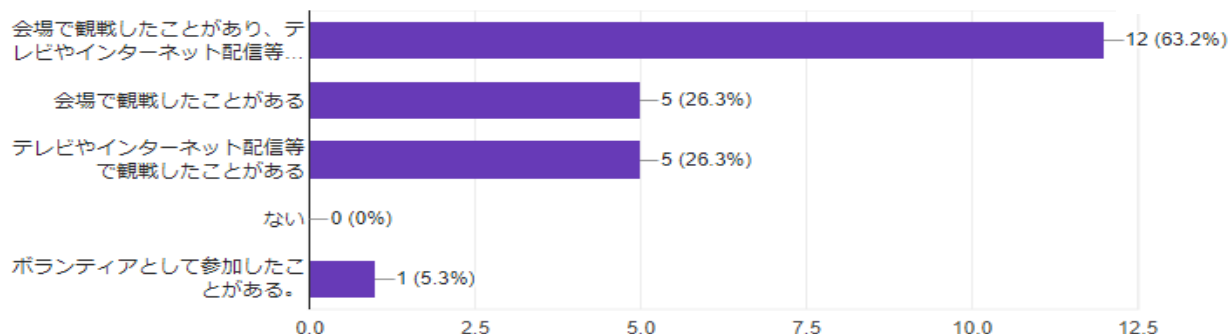
- 当日、参加にすると何名のスタッフが必要なのか分からないので、事前に確認できると良いと思いました。人数が多いとスタッフが足りなくなることもあると思います。
- 事前に練習を行うことは重要。個別の相談ができる環境があれば良いと感じた。例) 指導者と関係者（アドバイスができる人）が教室の間はビブスを着用。関係者（アドバイスができる人）は、教室の間、親御さんに現在の練習状況を聞いたり、質問を受けたりと情報収集も可能。
- 前日からの参加者のためには良かったです。
- 参加者が楽しそうだった。よかったと思う。
- 主の進行が宮崎の方がしてくれたが、そこは連盟スタッフがやるべきだったのではと思う。

④大会当日に行った「パラスポーツ体験会」について（任意）10件の回答

- 午前中は参加される方が多かったです。場所的にあまり人が足を運ぶ割合が少なかったです。
- 場所を競技場入り口正面辺りではできなかったのでしょうか。目立つと思います。飲食ブースも。
- 体験会や販売などのスペースが一体となっていてよかったですと思います。
- ③と同様、周知期間が短く、ややPR不足になってしまいました。「陸上教室（陸上競技体験会？）」が陸連ホームページの「お知らせ」に掲載される一方、「パラスポーツ体験会」は「ダウン症アスリート記録会」ページ内の各項目で紹介されていたので、できれば10月1日には何を何時から、2日は何を何時から、と一覧で分かるといいと思いました。
- 実施場所が良くなかった。やはり、正面周辺で行うべき（津波と言われていましたが、それであれば受付周辺でも可能）
- 来年度以降は宮崎県障がい者スポーツ指導員と半々ぐらいで企画から運営を担当してはどうか。
- とても好評でしたよ
- とても良い企画だと思う。
- 体験者の重なる時間にもよるが、運営スタッフがもう少し多くても良いと思った。

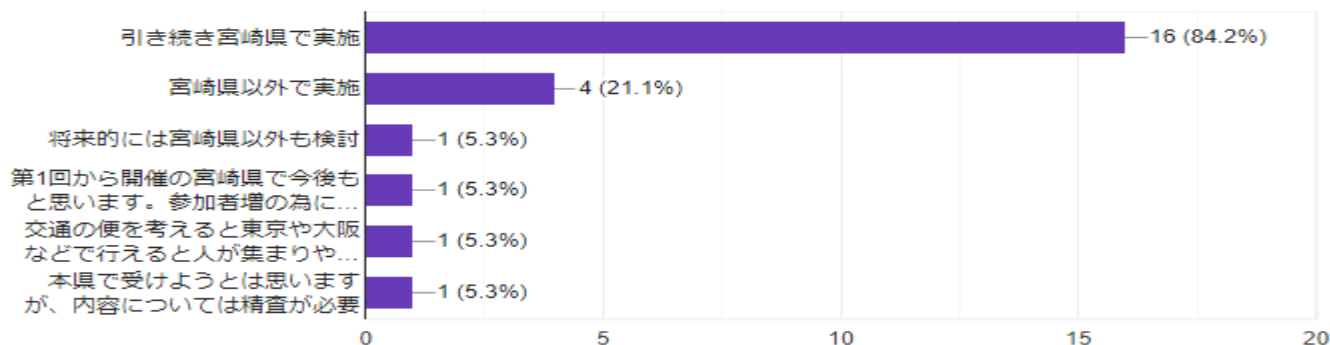
⑤パラスポーツ大会（パラリンピック・地域等で行われるパラスポーツ大会を含む）を観戦したことがありますか

19件の回答



⑥来年も継続して実施予定ですが、開催県はどこが良いと思いますか。（案がある場合はその他に希望する県をご記入ください）

19件の回答



⑦本記録会の運営等、お気づきの点、ご要望などがありましたらご記入ください。13 件の回答

- 宮崎陸協さんなど、宮崎県の方々に感謝です。
- 本当に素晴らしい大会を開いて下さり、運営の皆様には感謝しかありません。
- ダウンやパラの招集場が別に設けられていたが、近くに計測会場や店などがあったことで、召集後にそっちに行ってしまうていたりして、確認が大変だった。またダウン症の方が特に、あの場所を控え場所と勘違いしている人がいた。
- 運営体制の整備を再構築しないと大きな大会にはなりづらい。
- ダウン症の全国大会なので、ダウン症アスリートが目立つ形で運営できると良かった。ルールが混在したり、召集場所が違ったりで少しバタバタした印象がありました。
- カテゴリーが多い大会が同時開催だったため、記載ミスや記載漏れ等、記録情報が追いついていなかった。

1 0. 事業の成果と課題

成果

- ①11 都道府県 36 名の選手が出場。最終種目のエンジョイリレー（8×50mリレー）では選手、観客共に大いに盛り上がり、競技後のアスリート及び支援者達の笑顔が印象的だった。男子 200m、男子やり投、男子走幅跳で日本新記録を達成。昨年参加選手の 30 名中 19 名が今年も参加。地方の全国大会開催でも可能であることが実証できた。また、ダウン症記録会と共に「宮崎マスターズ陸上競技記録会」、「第 14 回宮崎県チャレンジアスリート記録会」が同時に開催され、チャレンジにはパラ種目が WPA エンドースとして実施され、東京 2020 パラリンピック出場の山本篤選手や高田千明選手も出場し、男子砲丸投げでは日本記録を更新した。みんなで一緒に競い合う姿。マスターズ選手（96 歳）からダウン症（7 歳）が同じ競技場で記録を争った。競技場外ではパラスポーツ体験会なども実施され、応援に来た子供たちが楽しく体験した。今回のスタイルが、グラウンドから町に、そして社会へと出て行ったら本当に助け合いの世の中になっていき、ダウン症の選手も地域で当たり前に参加できる状況になると感じた。宮崎陸上競技協会、宮崎マスターズ陸上競技連盟の、パラ競技受け入れ態勢は、全国的にも良いモデルとなった。
- ②また、コロナ禍が続く中、練習環境や、遠征などが厳しい状況の中、各地域との連携を図り、公認記録等、「全国特別支援学校 ID オンライン記録会」を開催。昨年度ダウン症のみ 50 名参加であったが、「体力テストの部」「チャレンジの部（一般大会の参加記録をエントリー）」のオンライン記録会 100 名目標にしていたが、実際には、すべての部総計 1463 名のエントリーがあり、各部門エントリーベスト 5 校をオンラインで優秀校として表彰式を行った。
- ③昨年度、ダウン症アスリートの練習方法などわからない。という意見もあり、練習動画、運動をする上で健康上、気を付けなければならない点の解説動画を HP にてアップ。SNS での告知、大会動画再生総数は、3,156 回でそのうち最高は 1365 回。（2023 年 1 月 20 日現在）
- ④各種大会と合同開催をすることで、観客数を増やすとともに、今年度は、日本福祉大学パラスポーツ研究所に依頼し、競技場周辺の小学校、中学校、15 校に大会案内と、体験イベントチラシを配布し、パラスポーツ体験を競技場周囲で実施し、100 名以上の参加者が、体験と、応援を楽しみ、観客 300 名を超えた。

課題

- ①今後の方向性として、宮崎県で2回連続開催し、参加者も増えてきており、小中学生の参加が大幅に伸びた。また、今回ダウン症について勉強会を行い、競技運営側も診断書の見直し、や各大会レベルでもポイントがあることが分かり、周囲に安全に取り組む手立て、診断のポイントの周知活動である。（医療機関との連携）

- ②今回、競技場外で、日本福祉大学により、パラスポーツ体験を依頼できたのは、本連盟が競技運営に専念できた大きな成果と考える。障がい者競技団体は、競技運営でも人員確保、準備等に追われ、どうしても小規模開催になりがちであるが、他団体と連携することで、集客数も増えていくことが、継続開催を可能にすると感じた。（他団体との連携）
- ③継続可能な自助努力を目標とし、協賛金獲得も、目標額を達成し、障がい者のみの大会では、参加者、運営共に困難が予想されるが、各都道府県陸上競技会との連携こそが、継続可能な大会では必須と感じた。（地域連携）
- ④全国特別支援学校オンライン記録会は、予想を上回る参加者であったが、まだまだ参加可能であると同時に、優秀な選手発掘にもつながることがわかったので、大会の告知、周知が今後の課題で、あらゆる場面での発信の必要性を感じた。

1.1. 波及効果

レガシーハーフマラソンのダウン症陸上教室

関東陸上教室（ダウン症対象）



○大会結果 <https://www.jidaf.org/2019-id>
<http://www.miyariku.org/keitai/index.html>

1.2. 補足資料

●新聞記事（テレビ放送）

- ・日本記録更新に挑む | U-doki | UMK テレビ宮崎 <https://www.umk.co.jp/udoki/-20221015-1.html>
- ・デジタルタ刊 プレみや <https://pre-miya.com/miyaspo/ippan/139106.html>
- ・自己新へ力走 - Miyanichi e-press https://www.the-miyanichi.co.jp/sports/_66499.html
- ・パラサポ WEB <https://www.parasapo.tokyo/schedule/102229>
- ・宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会 <https://www.kyugai.or.jp/>
- ・JPA 日本パラ陸上競技連盟（パラ連盟）公式サイト <https://para-ath.org/results/01-2/20221004-001-412>

●大会当日の様子



●日本ダウン症協会広報

スポーツ庁委託事業 令和4年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
2022 全国ダウン症アスリート陸上競技記録会



開催日時: 2022年10月2日(日)
 会場: ひなた宮崎総合運動公園
 ひなた陸上競技場(宮崎県宮崎市)
 主催: 特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟
 協力: 日本福祉大学

晴れ渡る宮崎の空の下、ダウン症アスリート競技記録会が開催されました(JDS後援)。宮崎マスターズ陸上競技大会内で開催された本格的な記録会であると同時に、パラスポーツの普及を目指した大会でもありました。

参加したアスリートの感想

オープン参加 60m 走で記録会に初参加
 矢田 絆一朗さん(13歳)

ぼくは、リク上大会ははじめてでした。ドキドキしてきんちようしたけど、3位になってよかったけどうれしかったです。また来年もリベンジでさんかして走りみたいです。
 記録会参加のきっかけは、学校担任からの大会の紹介でした。息子に伝えたら「行きたい。走ってみよう」との返事で、参加を決めました。同級生の友だちも誘って一緒に宮崎市へ。はじめは少々緊張していましたが、サポートスタッフの方々の気さくな声かけで、すぐに息子が笑顔になりました。競技場での記録会は初めてで、オープン参加の60m走。堂々と走り切りました。最後に行われた全員参加のエンジョイリレーも、知らない人たちの中で楽しんでいました。今回のように、ダウン症のある子どもたちがチャレンジできる場が全国にどんどん広まるとうれしいと思います。



参加したアスリートの保護者の感想

カテゴリ別のおかげで活躍の場が
 つくられることの大切さ

山田 健太さん(14歳)、父・山田 正志さん
 息子は3年間地元中学校の陸上部に在籍していたので、卒業記念に出場できる陸上大会を探して今大会を知り、速く京都から参加。中学男子100mの部にエントリーいたしました。当日は、宮崎や京都の友人もわざわざ応援に駆けつけてくれました。レース直前には、見ているこちらが緊張してきました。スタートの合図と同時にみんなが走り出し、スマホで動画を撮りながら見ていましたが、途中からは撮影を忘れ、大声で応援していました。結果は100m 16秒03で優勝。今まで学校の運動会や市の陸上大会に出場してもほとんどどっぴりでしたが、初めて優勝できました。みんなと一緒にというのも大事ですが、カテゴリ分けして活躍できる場所をつくることも必要だと感じました。温泉に入って空っぽでさやかな祝勝会をして帰路に帰りました。地元中学校でも全校生徒の前でみんなに優勝の報告をしていただき、健太も大変嬉しげで喜んでおりました。素晴らしい競技大会を開催していただき、感謝しています。

運営ボランティアの感想

「応援しなくなる」アスリートたちからの学び
 日本福祉大学 スポーツ科学部・陸上競技部駅伝ブ
 ロック長/永谷 千亜

皆さんこんにちは。私は日本福祉大学スポーツ科学部2年の永谷千亜と申します。今回、2022年全国ダウン症アスリート記録会に運営ボランティアとして参加して、主にパラスポーツ体験コーナーの運営を担当しました。ポッチャやフライングディスク、車いすバスケットといったパラスポーツを企画運営し、たくさんの方にご体験いただきました。準備をするにあたって、どのようにして多くの人に体験コーナーの存在を「知ってもらおうか」を考えることは大変でした。チラシを作成したりInstagramで宣伝をしたりして多くの方々の目にとまるように準備し、当日はたくさんの方が体験コーナーに来てくださり、笑顔でパラスポーツを体験する姿を多く見ることができました。

また、記録会の最後に行われたリレーでは子どもたちの近くでサポートをさせていただきました。子どもたちの表情から一生懸命さや楽しさが伝わってきて、私まで笑顔になりました。そして自然と応援したくなりました。私も陸上競技をして自然と応援したくなる」という感情を持っています。「応援しなくなる」という感情を持ってもらうことは簡単ではないと、日々感じています。しかし、記録会で走っていたみんなは、その応援したくなる感情を見ている相手にわきまをもち、力を発揮していました。本当にみんながよかったです。私も負けずに頑張ろうと、あらためて思うことができました。

私はダウン症のある子どもたちに触れ合うことも、体験コーナーを運営することも初めてで体験でした。大変なこともありましたが、何もかも初めての体験でとても楽しかったと同時に、たくさんのことを学びました。これからも積極的に、こうした機会に参加していきたいと思っています。

参加したJDSサポーターより

もっと気軽に参加できる機会を作っていきたい
 JDSサポーター/丸山 康幸

今大会にはJDSからは3名が派遣され、役割は主に広報と受付・照会でした。
 愛知県の日本福祉大学の教授と学生が行った「障がい者スポーツ体験コーナー」はとても良い企画でした。同時進行のマスターズ陸上では、年配のアスリートが真剣に記録や順位を狙って競い合う、真剣勝負の場面が見られました。マスターズの参加者は、誰しも年齢による不調を身体のごまかに抱え、全盛期に比べての衰えははっきりと感じながらも、練習したり大会に参加したりしているのだと思います。筋力が十分でなくてもスポーツを楽しみたい、自分の力を確かめたい...という点に、ダウン症アスリートとの共通点を感じました。勝負よりも自分の限界にチャレンジすることに意味を感じて参加する姿に、マスターズ大会とダウン症アスリートの練習会は相性が良いと感じたのでした。ダウン症の特徴があっても様々なスポーツに親しむことができるという認識を広めるために、本格的な記録会ではなくても、「体を動かす楽しさ」を伝えるイベントに、今後も期待しています。



●開催要項 (一部抜粋)

スポーツ庁委託事業 令和4年度 障害者スポーツ推進プロジェクト (特別支援学校を対象とした全国大会の実施事業)

全国特別支援学校IDオンライン記録会2022 開催要項

コロナ禍による部活動の制限、体力、モチベーションの低下が懸念される中、新たな大会様式とし、全国の障がいのある高校生選手の発掘を目指し、各種目のランキング付けを行うことで、今後の運動活動や、大会出場に向けて、チャレンジすることを目的とする。
優秀な選手・指導者の発掘もあわせて行う。※IDとはIntellectual Disabilityの略

- 主催 特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟
- 後援 全国特別支援学校校長会 公益財団法人日本パラスポーツ協会(予定)
- 協力 日本福祉大学パラスポーツ研究所
- 期間 2021年度4月1日～2022年度10月17日迄の記録
 (コロナ禍での実施のため2年間の記録を認める。ただし2022年3月に卒業した者は不可)
- 種目 【チャレンジ】100m 200m 400m 1500m 砲丸投 走幅跳
 【体力テスト】50m 立幅跳 ソフトボール投げ
- カテゴリー (男女別) ①知的障がい ②ダウン症 ③その他の障がい
 【チャレンジ】全スポ予選の部 各都道府県の全国障がい者スポーツ大会選考大会の記録
 各地域特体連の部 各地域の特別支援学校体育連盟主催の記録
 地域陸協の部 各地域陸協主催大会の記録
 高校体連の部 高校体育連盟主催の各都道府県大会、記録会の記録
 【体力テスト】2021年・2022年に測定した体力テスト結果
- 競技規定【チャレンジ】各種大会の競技規程に準ずる。
 【体力テスト】文科省新体力テスト実施要項を適用する。ソフトボール投 50m 立幅跳
- 参加資格【チャレンジ】各種大会参加者
 【体力テスト】学校の健康診断において陸上競技の運動制限のない者

※2021年度大会情報

https://www.mext.go.jp/sports/content/20220214_spt_kensport01_000022482_01_12.pdf

様式第16【無断複製等禁止の標記について】

無断複製等禁止の標記について

委託事業に係る成果報告書の表紙裏に、次の標記を行うものとする。

本報告書は、スポーツ庁の令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校を対象とした全国大会の実施事業）」委託事業として、特定非営利活動法人 日本知的障がい者陸上競技連盟が実施した「2022 全国ダウン症アスリート記録陸上競技記録会」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。